

平成30年度 第2回なかい戦略みらい会議 議事録

日時 平成31年3月18日(月) 10:00～

場所 中井町農村環境改善センター

2階 研修室

【会議次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題
 - (1) 地方創生推進交付金事業について
 - (2) 中井町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業について
- 4 委員の任期について
- 5 現行総合戦略の総括と次期総合戦略の策定について
- 6 その他
- 7 閉会

【会議資料】

- 資料1-1：地方創生推進交付金事業〔スポーツとブランドが融合した「里都（さと）まちなかい」魅力発信プロジェクト〕
- 資料1-2：里都まち魅力創生拠点整備プロジェクト 事業報告
- 資料1-3：里都まちブランドプロジェクト 事業報告
- 資料1-4：里都まちスポーツプロジェクト 事業報告
- 資料1-5：里都まちプロモーションプロジェクト 事業報告
- 資料2-1：地方創生推進交付金事業〔県西地域活性化プロジェクト推進事業〕
- 資料2-2：県西地域活性化プロジェクト推進事業 事業報告
- 資料3：平成30年度第1回なかい戦略みらい会議 指摘事項への回答
- 資料4-1：なかい戦略みらい会議設置要綱
- 資料4-2：なかい戦略みらい会議設置要綱 新旧対照表
- 資料5-1：まち・ひと・しごと創生基本方針2018（抜粋）
- 資料5-2：次期総合戦略策定に関する町の方針（案）

【会議録】

- 1 開会
町長より開会

2 あいさつ

座長よりあいさつ

3 議題

(1) 地方創生推進交付金事業について

座長 では、お手元の次第に沿って進めていきたいと思います。次第3議題ですけれども、(1)地方創生推進交付金事業について、事務局より説明をいたします。

事務局 着座にて失礼いたします。まず、資料の1-1をご覧ください。総合戦略に掲げる事業につきましては、国の地方創生推進交付金を活用しながら事業を推進してきました。その事業として大きく二つプロジェクトがございまして、まず資料の1-1につきましては『スポーツとブランドが融合した「里都（さと）まちなかい」魅力発信プロジェクト』になっております。こちらの概要にありますように、里都まち魅力創生拠点整備プロジェクト、つまり里都まち交流拠点の関係でございます。二つ目、里都まちブランドプロジェクト。三つ目、里都まちスポーツプロジェクト。四つ目、里都まちプロモーションプロジェクトでございます。

この事業の目的としましては、中井中央公園や里山等の地域資源を活用した里都まちスポーツと、本町の多種多様な農産物を活用した里都まちブランドの融合により、町の魅力の発信に磨きをかけ、里都まち交流拠点を中心に、憩いと交流の場を提供します。また、人の流れを呼び込むことにより、地域の活性化を図り、町の賑わいを創出するという目的で行っている事業でございます。

続きまして、2ページ目をご覧ください。2番で平成30年度重要業績評価指標（KPI）ということで、この事業に関する目標値と実績値、また3番でKPIの達成状況に対する評価というのを記載しておりますが、こちらをご説明する前に、まず事業の詳細な説明をさせていただこうと思いますので、資料の1-2をご覧ください。

資料の1-2につきましては、『里都まち魅力創生拠点整備プロジェクト』の事業報告でございます。1番のなかい里都まちCAFÉの貸出。平成29年7月より、なかい里都まちCAFÉの施設貸出を開始しまして、平成29年度は年間23件の施設利用で、参加者が559名でございました。また、平成30年度につきましては、本年2月までで40件の施設利用、1,076人の参加がございました。いろいろな方のアイデアを活用したワークショップ等を行っていただいております。

続いて、2番の里都まちキッチン等の貸出です。昨年6月16日の里都まち交流拠点グランドオープン時に、里都まちキッチンを活用してのピザの販売とタケノコご飯作りの実演、駐車場部分を使つてのマルシェ開催を行って、施設のアピールをしまして、里都まちキッチン及びインターロッキングスペースの貸出を開始しました。予定も含めて、今年度は26件の利用がございました。企業、小学校、自治会など、さまざまな方にご利用いただいております、写真がその様子でございます。

なお、下の写真にありますとおり、ここに整備してありますピザ釜、かまどを活用して、一般的なピザだけではなくて、スイーツピザですとか焼き芋なども、皆さんのアイデアで作っていた

だいております。

続いて、2 ページ目をご覧ください。3 番で里都まちキッチンの利用促進です。里都まちキッチンにつきましては、基本的には体験型施設ということで、皆様にご利用をいただくということですが、平日の利用がなかなか伸びないという課題がございまして、その課題解決に向けまして保健所の営業許可を取得し、平日にピザなどを販売することも、今検討しております。

4 番の協力会の実施です。なかい里都まちC A F E スタッフ、中井中央公園指定管理者、里やま直売所スタッフを中心に、中央公園全体としての魅力アップを図るため、年 2 回協力会を開催しております。その中で、アイデア出しですとか、課題や情報の共有を図っております。

なお、ブランドプロジェクトの部会の部会長との交流会を開催しまして、部会長とカフェのスタッフの方で交流会を開催した中で、店内の装飾の仕方ですとか、いろいろな店内のコンセプトの統一の重要性などについてアドバイスをいただいております。

続きまして 5 番、フェイスブックを活用した魅力発信でございます。なかい里都まちカフェのフェイスブックで、新商品の販売情報や人気商品の入荷情報等を発信しております。カフェスタッフの中から情報担当を決めまして、ほぼ毎日情報発信を行っている状況です。なかい里都まちC A F E ですとか交流拠点の情報発信だけではなくて、町内の魅力発信を幅広く行っていただいています。フェイスブック上ではコメントを投稿するお客さんも増えてきていまして、人気も拡大しております。

続きまして 3 ページ目、6 番で町外での PR でございます。本年 2 月に開催されました移住フェアで、なかい里都まちC A F E スタッフ 3 名の方に実際にご参加いただきまして、ブランド特産品をその場で販売していただきました。ブランド特産品となかい里都まちC A F E 等の施設の紹介をそこでさせていただきました。

続いて、7 番のなかい里都まちC A F E の PR 用ウェットティッシュ作製でございます。こちらは本日配布させていただきましたが、なかい里都まちC A F E の認知度向上と利用促進を図るため、施設の紹介が印字されたウェットティッシュを作製しました。なかなか認知度向上が行き渡らないということもございしますので、口コミの拡大を狙って、日常的に使われるウェットティッシュを作製しました。今、さまざまな機関で配布しております。

最後に、8 番で平成 31 年度の事業予定でございます。平成 29 年度にはプレオープンイベント、平成 30 年度にはグランドオープンイベントと大規模なイベントを開催してきました。交流拠点として、1 人でも多くの方に訪れていただくべく、それらに続くイベントの開催を目指していきたいと考えております。また、同窓会などの若者が集まるイベントの企画も考えていきたいと考えております。三つ目、里都まちキッチンを活用して、レシピコンテストの開催も目指したいと考えております。最後に、町の事務担当を企画課から産業振興課に移しまして、町の観光資源の一つとしても、里都まち交流拠点のさらなる発展を目指していきます。

おめくりいただきまして、『ちくわ@中井町』と書かれたイベントでございます。こちらは、本日ご出席いただいております委員のご協力をいただきまして、地区と地区が輪をつなぐまちこんとということで『ちくわ』とネーミングをさせていただいて、さまざまな世代の方が交流できるようなイベントを企画していただいております。23 日にまず 1 回目を開催させていただきまして、それ以降、定期的に開催をさせていただくという予定でございます。

続きまして、3 月 29 日のイベントの桜の絵の描いているチラシでございます。こちらはなかい

里都まちC A F E主催で行うイベントでございまして、春風亭一左さんという方が隣の秦野市出身の噺家さんでして、その方をお招きして日中に寄席を行っていただきます。その後、夜に中井中央公園の桜を見ながらピザの食べ放題というイベントをさせていただきますので、ご案内でございます。

続きまして、資料 1-3 をご覧ください。こちらが、『里都まちブランドプロジェクト』の事業報告でございます。1 番はまず目標でございますが、地域資源を活用した事業、産業の拡大を図る目的がございまして、目指す効果として、農地や山を有効に利用して豊かな自然を守る、雇用を拡大して町の資源を活かした事業に携わる人を増やす。最終的な将来像としまして、中井の豊かな自然の中で、町の資源等を活かした事業に携わり生活する『中井らしい生活者』を増やすといった目標を持って取り組んでございます。

2 番で事業の実施スケジュールを記載しておりますが、詳細に事業を説明させていただきますので、まずは 2 ページの 3 番をご覧ください。里都まちなかいブランド認証でございます。これまで 7 品のブランド認証品が誕生しておりますが、今年度新たに 4 商品がブランド認証品として認証されまして、3 ページ目の表にありますとおり、8 番から 11 番の赤字で記載されたものが新たに認証されました。ブランドの審査会の中で不採択となった商品もございまして、それにつきましては、認証基準が満たせるように改善を図っていただけるようにしております。今後も、ブランド認証品の拡大に努めてまいります。

続いて、4 番の販売実証です。消費者の生の声を聞くことで、商品の魅力と課題を確認し、接客のノウハウを現場に出て習得することで、商品の開発・販売に活かしていくことを目的に、販売実証を 2 回実施しました。今年度につきましては、1 番のあざみ野マルシェ、あと 2 番の大磯市に出店してまいりました。あざみ野マルシェでは 5 者の方、大磯市では 4 者の方に来店していただきました。

当日の結果を 4 ページ目に記載しておりますが、出店としての課題なのですが、商品の情報が的確に伝わり、目立つ POP やリーフレットの作成に加え、消費者に響く売り文句が不足していたと課題を感じております。また、二つ目として、試食してもらうとともに、レシピカードを配布するなどして、食べ方のイメージが湧くように商品を紹介できると、より効果的であったと課題を考えております。最後に、製造者自身が商品の特徴と売り方を認識し、明確なコンセプトのもとで販売する必要があるというところに気付きました。以上の課題については、今後の改善点ということで取り組んでいきたいと考えております。

次の 5 番のブランド育成支援研修会でございますが、開発支援補助事業者の自走化を目的に、事業の目的・目標の設定を明確にし、各事業者に見合った支援を実施するため、全 5 回のワークショップを開催しました。それぞれ講師の方をお招きしまして、左下の写真につきましては第 2 回の様子でございます。右の写真につきましては、第 4 回の試食の進め方ですとか、セールスツールを活用した販促方法についてということで、実際に事業者の方に接客をやっていただいて、専門の方に見ていただいて、課題等を洗い出しました。

続きまして、5 ページ目でございます。6 番、中井の魅力体感ツアーです。里都まちなかいブランドの認知度向上と中井町のファン獲得のため、体験ツアーを実施しました。現地集合・現地解散になったことと、参加費を有料にしたことが昨年度と大きく異なった点でございます。一度訪れて終わりではなく、自身で再び中井町に訪れていただきたいということから、実施方法を変更

しました。

当日の様子につきましては、参加者は 32 名でして、年齢はこのとおり幅広くご参加いただきました。男女比としては、男性 4 割、女性 6 割でございました。終了後には参加者にアンケートをとりまして、それも踏まえて結果を記載しております。ツアーを知ったきっかけとしましては、チラシ、紙媒体が最も多かった、口コミも意外と多かったということで、また体験内容を理由に参加された方が大半を占め、中でもピザ焼き体験の人气が高かったようです。三つ目、ツアーの感想として、ほぼ全員の方が『満足』という結果になりまして、特に地元農家の野菜を使ったオリジナルピザ作りが好評でありました。農業体験をしてみたいという意見が数件ありまして、地元企業の工場見学をしてみたいという意見や、中井町の歴史を知りたいという意見もあったため、今後ツアー内容の改善を図っていきたいと考えております。

続きまして、7 番の地元企業との連携でございます。昨年 12 月に開催されました、本日ご出席されています副座長にも大変ご協力いただきまして、テルモ株式会社の社内クリスマスイベント『湘南クリスマスナイト』で、ブランド認証品を含めた特産品を販売させていただきました。当日は約 350 名の参加がございました。地元企業との新しい連携という意味で、大きな一歩が踏み出せたと考えてございますので、今後このような取組みを増やしていきたいと考えてございます。

続きまして、6 ページ目をご覧ください。里都まちブランドプロジェクト部会につきまして、3 回目と 4 回目の様子をご紹介します。主な意見の部分をいくつかピックアップしてご説明させていただきます。研修会に参加していた方の商品がブランド認証されておりますので、研修会に参加することをまずは条件にできないのかといったご意見がございました。それにつきましては、個人事業主が多いことから、条件にするということはなかなか難しいのですが、積極的に参加してもらえるように声掛けをしております。また、ここに行けば絶対に商品が買えるという場所も必要である。ブランド認証品のセットもあるとよいという意見がございました。これについては、なかい里都まち C A F E でブランド認証品を販売しておりまして、要望に応じてギフト用のセットも販売しているところでございます。また、販売実証の様子を見ると、服装やブースのレイアウトが統一され、昨年度よりもかなりよくなったというように評価していただいております。

続いて、第 4 回の主な意見です。個々の事業者のホームページを作ることは難しいと思うので、町のホームページに事業者の情報を載せ、ブランド認証品が誕生するまでのストーリーなどを掲載できるとよいのではないかと。町ホームページの情報の充実を図ったかどうかというところがございます。それにつきましては、町のホームページにはブランド認証品の一覧を掲載しておりまして、事業者のホームページに移動できるようにリンクを張っております。さらなる情報の充実を図っていきたいと考えております。

また、ブランド商品については、現在自薦となっておりますが、他薦はできないのか。事業者自身にその気はないかもしれないが、他者からすると魅力的な商品はあると思うといったご意見もいただきました。我々としりましても、他薦というアイデアがありませんでしたので、これにつきましては他薦の仕組みというのは検討していきたいと考えてございます。

続きまして、7 ページ目をご覧ください。9 番で平成 31 年度の事業予定です。まず一番上に二重丸でありますとおり、ブランド特産品のマーケットの確保と拡大というのは重点的に取り組んでいきたいと考えております。二つ目で、ブランド特産品開発支援を行った商品で、認証まで至

っていない商品のブラッシュアップを行い、認証品になることを目指していきます。三つ目、販売実証や研修会を通しての事業者のスキルアップを図っていきたいと考えております。

続きまして、資料 1-4 をご覧ください。『里都まちスポーツプロジェクト』事業報告でございます。まず、1 番で目標でございますが、基本理念としまして、「スポーツで町民も地域も元気に！里都まちなかい」でございます。基本目標としましては、1、2、3 とございます。1. 「元気なまちなかい」スポーツを通じた「活力」あるまちの実現。2. 「快適なまちなかい」スポーツを通じた「快適」な暮らしの実現。3. 「健康長寿のまちなかい」スポーツを通じた「安心」して暮らせるまちの実現。これらの目標を基に行っているものでございます。また、同様に 2 番でスケジュールがございますが、この後ご説明しますので、まずは 2 ページ目の 3 番、里都まちスポーツプロジェクト部会をご覧ください。

こちらにも同様に、主な意見をご紹介させていただきます。里都まちなかいキッズサイクルフェスティバルは、交付金があるからこそできる事業で、継続は難しいのではないかと。抜本的な見直しが必然である。ただし、中井町を知っていただく、交流人口を増やすという当初の目的は達成できていて、評価できる取組みであった。町民の参加が少ないという点は問題ではないかといったご意見でございます。こちらにつきましては、抜本的な見直しを図り、これまでの課題をクリアできる取組みに見直していきたいと考えております。

続いて、来年度ノルディック・ウォーク指導員を増やすため、スポーツ推進委員に資格取得をしていただくということだが、スポーツ推進委員に限る必要はないのではないかと。また、資格取得料を町が補助するとしても、手厚くし過ぎることはないといったご意見もございました。こちらにつきましては、実施方針の見直しを行いたいと考えております。

続きまして、3 ページをご覧ください。4 番で、中井町の「地域スポーツ」を考える勉強会～総合型地域スポーツクラブ設立に向けて～でございます。総合型地域スポーツクラブの前身としまして、まず里都まちぷらっとスポーツという組織を立ち上げさせていただきました。それも踏まえて、総合型地域スポーツクラブの設立に向けて勉強会というものを開催しております。その中の参加者の意見を幾つかご紹介させていただきます。

これまでは、里都まちぷらっとスポーツの取組みを知っていただくということで、少し控え目であったところがありましたが、これからはもっと派手にアピールしていきたい。二つ目として、何を PR するかという点をしっかり決めてから行動したほうがよいのではないかと。今後は、里都まちぷらっとスポーツのブースを出展できる機会があれば、全部出展するくらいの意気込みで取り組みたい。特に町の事業とは積極的にコラボしていきたいというご意見をいただきました。

また特に、一番下にあります二重丸のところで、二宮町で総合型地域スポーツクラブが新たに誕生したと聞いたので、中井町のスポーツクラブはどういうものがよいのかという点も我々が明確にイメージするためにも、視察をしたらどうかといったご意見がございました。それにつきましては、実際に明日、二宮町のほうから講師の方をお招きしまして、総合型地域スポーツクラブを運営する上での課題ですとか、どのようなことをやっているかということをご説明いただきます。

続いて、5 番の里都まちなかいノルディック・ウォークでございます。これにつきましては、先週の 15 日金曜日から、まずは教室を開催させていただきまして、昨日イベントということで、町内を回るコースを回らせていただきました。参加費としては無料でございまして、コースとし

ては町内約 7 キロメートルのコースでございます。参加者にはブランド特産品を参加賞としてお渡しさせていただきました。4 ページ目をご覧ください。一番上にありますのが、当日のコースでございます。

続いて、6 番の里都まちなかいテニスのつどいです。こちらは、今年度から新たに企画しましたイベントになっておりまして、このイベントの目的としましては、本町において日常、スポーツとして活動が盛んなテニスのさらなる交流人口の増加と、そのサークル等の枠を超えた交流促進を図るとともに、怪我なく継続的にテニスを楽しめるプレースタイルを習得することを目的に実施するものでございます。テニスを選択した理由としましては、スポーツ施設の利用状況はテニスコートの利用が多いという結果が出ております。利用者の範囲も、町内在住・在勤者のほか、県西地域を中心に 5 市 9 町の在住者の利用が可能で、広域的な利用が図られ交流人口も多いというところで、テニスを選択しております。

右側のチラシのとおり、3 月 13 日の水曜日にまず 1 回目のイベントを開催させていただきました。皆様でテニスを行いながら交流を図っていただきました。第 1 回目につきましては、14 名の方が参加をされ、町内 6 名、町外 8 名の方が参加されました。性別につきましては、女性が 14 名ということで全員女性の方でした。当日は、まず準備運動としまして、ノルディック・ウォークのポールを活用しましてストレッチを行ったりウォーキングをさせていただきました。また、なかい里都まち C A F E でウォーキングポールについては無料で貸出をしているということの紹介と、あとブランド特産品につきましても、なかい里都まち C A F E のほうで販売しているとご案内させていただきました。来年度以降の取組みとしましては、今年度の実施にとどまらず、対象レベル等も変えながら継続実施することで、さらなる地域スポーツの推進を図り、総合型地域スポーツクラブのメニューとして取り込まれることを期待しております。

続いて、7 番の（仮称）里都まちなかいキッズスポーツフェスティバル 2019 でございます。こちらは、キッズサイクルフェスティバルをこれまで開催してきましたが、その代わりになるスポーツイベントとして開催を検討しているものでございます。子ども向けスポーツ教室や体験コーナーをメインとしまして、大人も参加できるコーナーを設定し、親子で 1 日楽しめるスポーツイベントとすることを考えております。

その下素案でございますが、本年の秋頃の開催を予定しておりまして、会場は中井中央公園、特にメイン会場としては里都まち交流拠点を考えてございます。

実施内容としましては、1 番で教室・体験コーナー。例えばベルマーレサッカー教室ですとか、補助輪外し教室、ランニングバイク乗車体験、パークゴルフ無料体験、ノルディック・ウォーク教室、ヨガ教室などを考えております。2 番でチャレンジコーナーとしまして、先ほどご説明しました里都まちぷらっとスポーツによるコーナー設置も考えております。3 番でゲストコーナーとして、近隣の総合型地域スポーツクラブによる特設コーナーの設置も考えております。

続きまして、5 ページ目をご覧ください。4 番でゲスト出演としまして、子どもたちのダンスのサークルでございますパワフルキッズによるダンス、また中学校の吹奏楽部による演奏もゲスト出演として考えております。概算費用としましては、約 85 万円を見込んでおります。その他ですが、1、2 年は町主導で進めまして、その後民間へと実施主体を移行できるように進めていきたいと考えております。当日は、ブランドマルシェ等との同時開催も調整をして考えていきたいと考えております。

最後に8番で、平成31年度事業予定でございます。スポーツ推進計画の着実な推進、ノルディック・ウォークの普及及び自主的な活動の推進、里都まちふらっとスポーツによる継続的なイベントの実施、中井町らしい総合型地域スポーツクラブの創出、新しいスポーツイベントの実施と継続でございます。

続きまして、資料1-5をご覧ください。里都まちプロモーションプロジェクト事業報告でございます。こちらプロジェクトの目的としましては、地域の魅力、強みを掘り起し、町のイメージアップや町民の地域への愛着度、誇りを高めるための取組みを行うものです。町の価値と魅力を町内外に発信し、町への集客による地域の活性化、人口減少の抑制に繋げていくものでございます。

それでは、同様に2ページをご覧ください。プロモーション冊子及び動画の作製でございます。プロモーション冊子につきましては、本日お配りさせていただいたものになっておりまして、町の魅力や施策を広く発信することにより、町の知名度の向上や町外在住者の移住及び町民の定住促進につなげるために、プロモーション冊子及び動画を作製しました。実際に中井町に移住してきた5名の方にインタビューを行いまして、その様子を冊子及び動画にしました。番外編として、里都まちキッチンでのピザ作りの様子も収録しております。シティプロモーションの戦略指針に掲げていますとおり、30代、40代の子育て世代というのがターゲットでございますので、その方々に向けたデザインとしております。

続いて、4番のブース出展でございますが、12月以降に4つほどブース出展してきましたので、その内容でございます。まずは、12月に開催されました湘南シクロクロスで、自転車のイベントでございますが、その際に町のPRブースを出展しまして、町のPRとともに意識調査を実施しました。これは、シティプロモーションターゲットの意識の現状を把握するために実施したものでございまして、今後も継続的に実施していきたいと考えております。

その結果でございますが、3ページ目をご覧ください。まず、質問内容として3つございまして、1として「子育てするなら自然豊かなところがいい」、2「子どもに地元をつくりたい」、3「お金にも心にもゆとりを持って子育てをしたい」というこの3つの価値観に納得するかということを行いました。この3つの価値観というのは、戦略指針に掲げておりますターゲットとなる方の求める価値観でございます。

②「都会過ぎず田舎過ぎない（ちょうどいいちょっといい）」こういう暮らしをしてみたいかというところのご質問です。③中井町の魅力を友人や知り合いに推奨（おすすめ）する気持ちはどのくらいあるかというところをお聞きしました。回答者数としましては40名でございまして、また結果としましては、①設問1、2につきましては1名のみが「いいえ」を選択しまして、設問3は全員が「はい」を選択しました。②の設問につきましては、全員が「はい」を選択しました。最後に、③につきましては10段階評価で、5〜8を選択した割合が最も多かったです。本当に推奨していると言えます9、10を選択した割合は12.5パーセントでありまして、メインターゲットの30代、40代に限定しますと15.4パーセントと高くなりました。さらに詳しく見てみますと、15.4パーセントの中でも、9、10を選択したのは男性のみでありました。女性の推奨意欲は低いということは問題であると思いますし、一方で男性にチャンスがあるというふうにも考えております。

続いて、JOIN 移住・交流&地域おこしフェアでございます。こちらは例年、東京ビックサイトで開催されているイベントでございまして、日本全国約500団体が出展する中、神奈川県から唯一、

中井町が出展をさせていただきました。当日の様子は写真のとおりでございますが、スウィングバナーですとか、椅子カバー、テーブルカバーにつきましては、このデザインをブランド部会長に考案いただきまして、デザインを統一したコンセプトの下で出展をさせていただきました。そのときの結果としまして、3 ページ目下にありますように、単に会話した方を除きまして、実際に移住相談を受けたのが 11 名でございました。セカンドライフを田舎で過ごしたいという高齢の方からの相談が多かったです。また、移住するに当たって、就職先の不安や住宅の斡旋に関する質問も多かったです。ターゲットである子育て世代が食い付くようなブースづくりや声掛けは必要であったと考えております。また、緑みかんシロップの試飲から会話が始まることが多く、非常に効果的であったと評価しております。

4 ページ目です。のぼり旗を設置しているブースは多々ありましたが、当町のようにスウィングバナーを設置しているブースは少なく、かなり目立っていましたので、スウィングバナーの設置も効果的であったと考えております。移住検討者がどのようなことを考えていて、何に興味・関心を持っているのかというところが分かりましたので、次回のブース出展時の改善点が発見できたと考えております。

続きまして、HaNaNiOi 移住フェアでございますが、これは先ほど資料 1-2 でご説明しました。なかい里都まち C A F E スタッフの方にもご参加いただいて PR を図ってまいりました。

続きまして、第 6 回神奈川県移住セミナーでございます。こちらは、ふるさと回帰支援センターという場所で行われまして、町の紹介とともに移住検討者の相談対応をしてまいりました。当日は、委員と新規就農者で移住を実際にして来られました 2 名の方にご参加いただきまして、その方たちに実際に移住検討者の方と会話をしていただいて、実際に生の声をお届けすることができたと評価しております。

続きまして、5 ページ目の 5 番、職員によるシティプロモーションでございます。職員一人ひとりが町の魅力を発信するセールスマンであるという自覚を持ちまして、一丸となって町の魅力発信を行うため、全庁的にプロモーション活動を展開しております。例えば、町のイベント開催時にノベルティやチラシを配布して町の魅力発信を行うように全庁的に呼び掛けをしております。また、全庁的に職員のメール署名欄等にブランドメッセージを入れて、町の PR に努めております。加えて、里都まちロゴピンバッジを付けまして、町の認知度向上に努めておるところでございます。

続いて、星槎国際高等学校湘南女子サッカー部へのプロモーションでございます。同女子サッカー部は、先般開催されました全国大会で初優勝を飾りました。当部員には、町のフェスティバルの際にボランティアでイベント実施にご協力いただいているところでございます。そこで、全国制覇をお祝いしまして、今後も中井町との連携を図っていただけるように町長が同校を訪問しまして、部員に対して町のブランド認証品「幸福プリン」をプレゼントしました。この様子はタウンニュースにも掲載させていただきました。

このように、近隣の学生などを中心に若者へのプロモーションを行うことで、中井町への愛着の醸成と来訪意欲の向上を早い段階から図り、将来的な当町への移住・定住を促していきたく考えております。

最後、7 番で平成 31 年度の事業予定でございます。シティプロモーション戦略指針アクションプランの作成、町内・町外の意識調査の実施、幅広いイベント出展、シティプロモーションに関

する庁内研修会を予定しております。

ここで、資料 1-1 のほうにお戻りください。資料 1-1 の 2 ページ目、2 番の平成 30 年度重要業績評価指標でございます。このプロジェクトに関しましては 3 点ほど KPI を設定しておりまして、1 番がなかい里都まち C A F E 事業収入です。この目標値、実績値につきましては、昨年度と比べてどれだけ増減があったかというところでございます。目標値の 1 番としてプラス 270 万円という目標がございましたが、実際にはプラス 560 万円ということで、目標値を大幅に達成できたというふうな結果が出ております。

2 番の社会増減と自然増減による人口増減数につきましては、人口減少数としましては、昨年度マイナス 60 人だったのを今年度マイナス 75 人にするということで、15 人さらに減少にとどめるのが目標値でございます。実績値としましては、昨年度 71 名の人口減少がございまして、実際に今年度は人口減少数 80 名ということで、さらに 9 名人口減少が進んだということで、昨年度から比べて減少幅につきましては、目標よりも低く抑えられてはいるのですが、実際の人口減少数は 80 名ということで、75 名の目標よりもさらに人口が減少してしまったという結果が出ております。

3 番で、東名高速道路秦野中井インターチェンジ 1 日平均利用台数につきましては、プラス 300 台の目標に対しまして、マイナス 15 台という結果になりました。

3 番の KPI の達成状況に対する評価、2 ページ目の下のほうをご覧ください。当プロジェクトを推進することで、総合戦略に掲げる新規起業者数の増加、交流人口の増加、中井町を推奨している町民の増加の目標達成も図り、人口減少に歯止めをかけていくというところでも取り組んでおります。なかい里都まち C A F E では、直近の半年で新たに雑貨販売を開始した事業者が 4 者おりまして、当施設が事業規模を問わず多様な商品を販売できる場として活用されていることが分かります。ブランド認証品を購入するためやスポーツイベントで来店されたり、交流人口の増加にも寄与しています。このように、中井町との関係ができることで、中井町をおすすめしたいという気持ちに繋がっていくものと考えております。

一方で、KPI②、③の結果を見ますと、出生数の増加ですとか、町外、特に遠方からの来訪に課題があると言えるため、町外での移住・交流イベントにつきましては出展を継続しまして、町民とともに中井町の魅力情報を拡散させ、町外の子育て世代の転入促進を課題・目標として、創意工夫して事業を進めていく必要があると考えております。

続きまして、このまま資料 2-1 をご覧ください。資料 2-1 につきましては、『地方創生推進交付金事業の県西地域活性化プロジェクト推進事業』でございます。こちらの事業の目的としましては、県と県西地域 2 市 8 町で、都心から近い地域でありながら、特色ある自然に恵まれ、豊富な農産物が手に入り、様々な運動を楽しめるフィールドがあるなどの魅力がありまして、未病を改善するというのをキーワードに、魅力を高めアピールしていくことで、交流人口の増加と地域の活性化を図るものでございます。

同様に、資料 2-1 の 2 ページ目、KPI の評価がございしますが、先に事業の内容をご説明させていただきますので、資料 2-2 をご覧ください。『県西地域活性化プロジェクト推進事業』事業報告でございます。1 番、未病センター・なかい健康づくりステーション事業でございます。健康づくり・体力づくりの拠点としまして、平成 28 年 2 月に設置しまして事業を推進しております。今年度につきましては、開設して 3 年目を迎えるということで、今年度に利用促進と PR 目的で記念事

業を開催しました。開設 3 周年記念事業の内容としましては、日頃は測定できない健康度測定等の各種コーナーを用意すると同時に、町の町民文化祭と同日開催することで来所者増を図りました。

内容としましては、各種健康度測定、また ME-BYO キャラバン疲労ストレス度チェック、ボディタイプチェック、野菜クイズ、運動体験コーナー『足（脚）の体操』、なかい誕生 110 年記念事業としまして《クッキングレシピコンテスト》、入賞レシピ発表と最優秀レシピの試食を行いました。来場者数としましては 172 名でございました。

続いて、2 番の未病センター・なかい健康づくりステーションの PR ポスターを作製でございます。未病センター・なかい健康づくりステーションの利用促進を図るため、ポスターを作製しまして、なかい里都まち C A F E、また町と関係がある医療機関に依頼しましてポスターを掲示していただいております。加えて、大井町にございますビオトピアにつきましても掲示をさせていただきます。

それでは、2 ページ目をご覧ください。3 番で、健康プラン推進事業でございます。美・緑なかい健康プランに基づき、健康づくり・食育推進団体やボランティア等と連携し、生涯各期に応じた事業を実施しました。継続実施している事業のほか、平成 30 年度は先ほどもありましたとおり、なかい誕生 110 年記念事業としまして位置づけた《クッキングレシピコンテスト》を実施しまして、町内の小中学生より中井町で取れる食材を用いた 30 分以内でできる食事のレシピを募集しまして、222 点の応募から 13 点の入賞レシピを各種事業等で紹介、広報なかいにおいて順次レシピ掲載、町内公共施設等にレシピ集を配架しております。

最後に、4 番で平成 31 年度の事業予定でございます。未病センター・なかい健康づくりステーション事業の推進としまして、県の健康支援プログラム等の活用、体力測定会の継続実施と関連した運動教室の開催、美・緑なかい健康プランにおける健康づくり、食育の推進としまして、健康ポイント制度の継続実施、1 日 1 体操の推進、体操サポーター養成研修の実施などを計画しております。

それでは、資料 2-1 にお戻りください。2 ページ目の 2 番、平成 30 年度重要業績評価指標でございます。同様に KPI として三つございまして、1 番が県西地域 2 市 8 町における社会増減でございます。これにつきましては、昨年度からプラス 400 人という目標がございましたが、実績としてはマイナス 217 人ということで下回っております。2 番、県西地域 2 市 8 町における入込観光客数につきましては、目標が 62 万人でございまして、今年度の実績につきましてはまだ出ておりませんが、参考としまして昨年度は 230 万人の方が入込観光客数としてカウントされておりますので、今年度も目標値はクリアできるのではないかと考えております。3 番、「県西未病観光コンシェルジュ」講座修了者数につきましては、70 名の目標に対しまして 85 名の実績が出ております。

最後に、2 ページ目の下の 3 番の KPI の達成状況に対する評価でございます。当プロジェクトに関しましては、中井町の役割に沿い事業を行っているところでございます。具体的には、なかい里都まち C A F E が『未病いやしの里』に登録されておまして、ノルディック・ウォークイベントを実施したり、中井町の景観を楽しみながら健康・体力維持を図るなど、町の魅力と地形を生かしたスポーツ実施の機会を提供しております。さらには、未病センター・なかい健康づくりステーションの整備と利用促進を図り、健康状態や体力の確認と健康づくりを促しております。

加えて、美・緑なかい健康プランに基づいた各種講座や健康ポイント事業などにより、健康づくりに努めているところでございます。

当プロジェクトの KPI につきましては、KPI①で当町の社会増減はマイナス 8 人でありました。県西地域 2 市 8 町における社会増に貢献できなかったというところは言えると考えております。当町としましては、このプロジェクトを推進することで、総合戦略に掲げる交流人口の増加や未病センター利用者数の増加などを図っていきたいと考えております。特に未病センターの利用者数につきましては、年 1,000 人の目標に対しまして半分程度の利用者数となっております、県西地域の情報発信力も活用しながら継続して情報発信を行い、利用者数の増加に努めていきたいと考えております。

それでは、議題（１）の地方創生推進交付金事業についての説明は以上になります。

座長 ありがとうございます。大変、ボリュームがありますので、どこからでも結構ですので、ご質問やご意見があればよろしくお願いいたします。

データがあれば教えてほしいのですが、フェイスブックとかその辺のカウント数なんかは把握されているのですか。

事務局 今、手元にはないのですが、フォロワー数ですとかそういったところは常に気にして見ております。

座長 数値が出ますよね。あれをやはりカウントしていくといいと思うんですね。そうすれば、どんなものにどんな反応があるとか、ページにどのぐらいの人が来ているとか分かりますので、ぜひ。毎月じゃなくて、1 年間に 1 回くらい確認していただきたい。

事務局 あと、いいね！をしていただいている記事がどのぐらいあるのかですとか、こういった内容であればいいね！が多いなということも考えて見えています。

座長 ぜひ実施していただいて。2 件目のなかいブランド認証が増えたんですけど、その辺のそれぞれの商品に対する反応というのを探るべきです。販売数で。

事務局 なかい里都まち C A F E のほうで今、販売させていただいてまして、その中でこの商品がよく売れるですとか、そういったことも結果として出てきておりますので、そういうのも見ながら、今後、商品の改善ですとか販売促進を図っていきたいと考えております。

座長 そのブランド商品では、先ほどかなり売上が上がっていますが、貢献しているというふうに判断してよろしいんですか。

事務局 そうですね。

座長 増えた分、増えている。

事務局 そうですね。

座長 さらに売れているとか、そういうのが分かるといいですね。これは、商品は全てふるさと納税の商品、返礼品の中に入っているのでしょうか。

担当課 この半数が、ふるさと納税に入っております。

座長 昨年度までのやつは入っているということですか。

担当課 全てではなく六つですね。

座長 今後はどうされるんですか。積極的に。

担当課 湘南アイスクリーとか、また郵送方法にも課題があるものもありますので、そういったものを詰めながら、ふるさと納税として推奨していきたいと思っています。

座長 ふるさと納税のサイトは結構、使いやすくなっているんで、そこに載るとかなり反応がいいんですね。ぜひその辺をふるさと納税に入れていただくといいかなと思います。

あとは、移住者の関係ですけど、空き家情報とかその辺は今後どうされる予定なのですか。

事務局 町のほうでは、一応、空き家バンクというのは設けておるんですが、3年ほど前に町内の空き家情報ということで調査いたしまして、実際に戸建ての部分ですと約100ぐらいの戸数の空き家があるというようなことの調査結果が出ております。その方には、一応、町のほうとしましても、町で空き家バンクをつくりましたので、そちらへのご登録のほうをお願いしているところなんですけど、所有者の考え方もございますので、なかなかそこは進んでいないというところです。神奈川県の家建協会の小田原支部さんとも協力しながら、そういった神奈川県の県西版の空き家バンクというの、その中で立ち上げさせていただいておりまして、その中には各宅建協会さんの中井町にある、そういった空き家情報も入っていますので、そういうところとリンクしながら、中井町のそういった空き家に対してもPRはしていきたいというふうには考えているところです。

座長 かなり、移住に対して外に行って活動されているようなんですけど、多分、その辺の情報がないと、なかなかうまくいかないのと、あと家賃ですよね。家賃がどういうふうになるのか、誘導していくために、多少、補助を出すということもありますけど、その辺どういうふうに取り組むのか、これは空き家だけでなく農地のほうもそうだと思うんですけど、その辺で情報の出し方がよくないと、移りたいなと思ってもハードルが高くてなかなか動いてくださらないと思いますので。移住用の体験施設というのはあるんですか。

事務局 今、移住体験施設という形ではご用意していないところです。昨年度は、先ほどもちょ

っとご説明させていただきましたが、いろいろな移住フェアに行きまして生の声を聞いた中で、そういったところでどういうものをお求めになっている方が多いかというようなところも実際にやってみて、お話も聞かせていただいておりますので、それらを含めて、今、座長のほうからお話もあったように、検討は進めていく必要があるかなというふうには感じております。

座長 私以外の市町村でやった例は、空き家の体験施設を最大 1 週間まで借りられる。町のホームページに出しているところというのは本当に少ないんですけど、返礼品の商品を載つけた瞬間に、8 月、9 月は全部いっぱいなんです。やっぱりそちらの情報のほうが皆さん見ている。住体験はなかなか実績には繋がっていないんですけど、それでも来ていただいて 1 週間その地域にいてくださるということ、訪れてくれるとか、そういうことなので、やはり説明だけではなかなか中井の良さは分からないと思うので、できれば住体験できるような空き家をつくって、そこに入ってもらいたいというのが一番いいんでしょうし、中井の場合は畑が付いていると、さらにいいのではないかなと思うんですけど、有田市というところでやったんですけど、有志で町に寄付してくれるような施設を改修したんですけど、ぜひそういう施設を造って、実際に来ていただくというのをやっていくのがいいかなと思いますね。ある意味では、中井には宿泊施設がないので、多分、農業を体験して、そのまままたどこかの、秦野のほうとかに泊まるとか、それではあまりよくないと思うので。最近、農業体験も非常に興味を持っている方はいらっしゃいますから、それがすぐ移住に繋がらないかもしれませんが、そういう手だてを来年、検討していくというようなこと、それからまた空き家の方たちにも、そういうことをアピールしていくというのもあっていいのではないかなと思います。

もう一つ群馬のほうで、農家体験を学校単位で受け入れているところがあるんですけど、農家でその体験で年間 300 万円ぐらい年収が入るという人もいますね。農業体験ですから、農業の何か体験するためのメニューを用意しておいて、それで農家に全部泊まって、それでお金を落としてくれるわけですね。それも積極的に取っているんですね。そういう形でかなり、100 件ぐらいあるんですね。かなりそれぞれ年間の売上が上がっていくんですね。そういう例もありまして、ちょっと知恵を使っていくのも一つの方法だと思いますので、ぜひご検討いただけるとういかなというふうに思います。もし視察したいということであれば、ご紹介をします。

あと、ついでに話しますけど、スポーツイベントのところで、今日委員さんもいらっしゃるの、自転車がやっぱりもうちょっと頑張っているんじゃないかなと思っていて、何とか手だてがないかなと思っていたんですけど、やはり同じ有田市で、今年、自転車でイベントをやったんですけど、行政もちろん予算を持っているんですけど、それだけではなかなかどうにも体験する自転車の準備もできないので、和歌山県内、和歌山市の自転車ショップの方たちと連携してイベントをしたんですけど、かなり成功しまして、町で乗るようなものではなくて、マウンテンバイクとか負荷をかけて乗るやつは、本当にアップダウンのある所で乗らないとフィッティングが分からないらしいんですね。そういう機会があると、結構高い自転車が、高いと 30 万とかもって高いのもありますよね。部品も含めて販売するチャンスが広がるということで、自転車を売っている方たちは、どうしてもそういうコースを設定するのが、行政と組まないと道路は走れないので、そういう大会をやってくれると協力しますよという形で今回やったんですけど、非常にうまくいって、将来は自立的に民間の人にも自転車のイベントを提供してもらいたいなということ

でやったんですね。大人向けのものと、子どもも楽しい自転車を一緒にセットにして、家族全体で楽しめるようにしたんですけど、そういうのが中井でできるといいと思いましたけど、どうでしょうね。

委員 最初の頃進言したのは、外から来てもらうのが一番いいんですね。中には地元の人がいっぱいいたり、地元はあまり考えていなかった。そういう意味では、最初のアプローチとしては、今、先生がおっしゃったように、最近すごい人気でおさまっていくとは思いますが、茅ヶ崎の柳島運動公園では、我々の経営するショップが入っていて、そこに試乗できる、普通は30万か40万するんで、それを試乗できる場が茅ヶ崎に稼働している。

今、ご存じのように、自転車というのは安売り店がいっぱいあるので、彼らはそれでは生きていけない。競技用の自転車を専門にやって、月の売上報告が120万、150万、リフト3台と書いてあるんです。そういうスキームは回るには回るんだけど、彼らも実はそこそこの近隣は住宅街ですし、普段レンタルで回すということがないとなかなか回らないので、高級型のスポーツはちょっと町になじまないのかな。ただ、来て走ってみたいというエリアがあることは間違いありません。アップダウンもあって。ただ、これをやる時、最初は大会でも誘致したらどうだろうと専門家に言ったら、キャパの問題で、公園から出てくる道路の太さの問題でちょっと無理がある。やってできないことはないけど、ちょっと危ない。人気が出ちゃうと、ものすごく集まっちゃうんですね。100の単位じゃなくて。そうすると、今度は駐車場がここはあるので、大きなイベントだとすると、スタートするときの全体キャパが、結構な太い道路を最初に押さえないと、だんだん細長くなってくるんですけど、最初は太いのでちょっと無理がある。クオリティを下げてやることは無理ではないんですけど、どうでしょう。僕なんかは単純に、公園から上の畑のところに出てみて、富士山が見えて山を走らせてみると、最高のコースだなと思ったんですけど、そういうことでそれは断念した経緯があります。

ただ、やり方かなと思っていて、一度それこそ町長に相談に行こうかと思ったんですけど、実は今はちょっとまだ秦野側なんですけれども、マウンテンバイクの子どものコースを実験的につくっています。それはまだ、広く告知をしてしまうと人がいっぱい来ちゃうので、近隣対策、スタートからやることがあるので、こそこそとやって近隣の人にまず嫌がられちゃうと困るので、瞬間的には距離を走るので、赤道というか、けもの道も出たりするので、農道を走ったりもするので、移動が必要なんです。決められた土地の中だけでやると非常に狭いコースになっちゃうので、それを地元の方にご理解いただきながら実験的にやる。

彼らが次にこういうふうに戻したいんではないかと言っているのは、中井の南側のちょうど昔の運動公園のあった南の斜面なんですけど、そこをコースとして取り入れたい。つくるとお金がかかるので、どうしましょうかみたいな話をして、それはもしやるとしたらそうしたらよいのだろうと。ただ、来過ぎると困るという。コースが荒れると結局、環境破壊だと騒ぎ出す。トレイルランもそうなんですけど、トレイルランも非常に今、選手たちはこっそりトレーニングをして走っているわけなんですけど、大会をやれば間違いなく来るんです。ところが必ず、環境破壊とセットで付いてくる。この辺は腹をくくってやらないと、なかなか今昔でいえば山の中を歩いて、それは自由な権利だったんですけど、最近は訳の分からない新しい権利が生まれてきています。ちょっと子どもを集めてやろうとしても、難しい人たちが来て、何とか草が折れちゃったというわけです。

それうちの裏に咲いているという話です。その辺をうまく調整するためには、自転車というのは、運動公園の大きな大会とは別に、少しやっていったら面白いかなと。

あとついでに言ったら、総合型地域スポーツクラブのところで、我々もいろんな所でアドバイスを頼まれるのですが、大体うまくやられないのがいろんなことをやり過ぎちゃう。メニューが多過ぎちゃう。ウォーキングをします、あれもします、バスケットボールもやります、スキーもやります。スタートはある程度、絞ったほうがいいですね。総合型地域スポーツクラブというと、いろんなことができますよということがベースになるので、2 種目しかやらなかったら総合型じゃないじゃないのかという意見がどうしても出ちゃうんですけど、海外でいうとスキーはジャンプしかやっていない。でも、そのためのトレーニング施設とか、走る運動場はあるから総合型という解釈なんで、それを種目で繋げるというやり方を取ると間違うので、余計なコストが出てきます。例えば走るというのは、一つの競技のコーチに来てもらえば、実は走るのも柔軟も全部できるんですよ。ところが、複数競技をしちゃうと1人ずつ呼ぶから、コストが上がっちゃう。その辺は、少し気を付けて。あまり派手にやろうとすると、大体どこも失敗しているし、地味にやったほうがいい。やる気のある人にやってもらう。じゃないと、我々とか行政がずっと面倒を見なきゃいけない。自走しなくなるんです。やってもらうのが当たり前になっちゃうんですよ。それはずっと目に見えないコストみたいなもので、繋がっていったら。本当に熱心にやりたい人を探してきて。パークゴルフが競技性が強くなってと書いてありますけれども、本来はビギナー用のコースを作ったりとできる。我々が始めたときは、サッカーとビーチバレーでスタートして、2 種目からトライアスロンに発展して、その当時は競技順に、トライアスロンは三つあるんで、走って自転車に乗って泳ぐ、これ以上しばらく要らないということをしました。そうされた方がいいと思います。

あと、全体を見ている中で、ブランドづくりといろいろ新しく商品ができていますけど、もともと表のかがみがスポーツということで、里都まちでスポーツとブランドが融合した。最近、試合で地方に行くと、競技場でその町のいろんなものを売っているわけですよ。三つあって「珍しいもの」「本当においしいもの」もう一つはやっぱり「体にいいもの」なんですよ。だから、ポリフェノールとか書いちゃいけないんです。一般的にポリフェノールであるとか何とか、そういったものはこの中井の中の農産物の中に必ずあるはずなんで、それを前面に出して別々になっちゃうとスポーツ、未病をやるんであれば未病のプラスで、これを毎日飲んだほうがいいですよ。それは別に売るものじゃなくても、例えば野菜ジュースの作り方とか、こういうものを入れたほうがいいですよ。それを横断的にやったほうがいいんじゃないか。そのほうが、このかがみの題材に合ったものになるんじゃないのか。ちょっとそう感じました。

座長 ありがとうございます。そういう意味でいうと、どういうふうに絞っていったらいいんですかね。グラウンドゴルフは一つはありますよね。

委員 実際、山歩きもスポーツなんですよ。ピクニックで始まる総合型スポーツクラブというのは、結構スイスとかで山のピクニックから始まって、能力の高い人は登山をやって、あまり坂を登るのが嫌な人は坂を走って、注目が時代と共に増えていく。まずは人が集まるものはなんか核に持ってこないと。それで申し上げたのが、パークゴルフは集まっている。それを中心に。ゼ

ロから集めるのは結構大変で、総合型スポーツクラブのいちいち説明をしながらやると堅苦しくなると言うんですよ。大体つまらない。つまらないものにしては、なかなか長続きしないので。恐らく集まるということで行くと、本当にノルディックがいいんですけど、ノルディックしなきゃ駄目だよと言っちゃうと、私それを持って歩くのは嫌だと。なんでもいいんですよ。山は歩きますから。いろんな所がきれいだと思いますが、スポーツクラブにもあれば。

それはスポーツなのかという議論を我々も耳にして、今よくテレビで問題というか議論されているのはeスポーツ。国体でもありました。テレビゲームがいわゆるオリンピック競技になる。チェスというのもヨーロッパではスポーツなんですよ。頭を使うスポーツは、相当カロリーを消費したりするんですね。そういったことも時代的にはあって。何でなきゃいけないというあまり縛りをしないとか。人が集まってくればいいじゃん、碁でも将棋でも。碁と将棋は、だからそういう意味でスポーツになるんでしょう。これからの時代頭を使って、カロリーを消費して。それが脳みその活性化に繋がるということは、健康維持ということに。どうしても、ポテトチップスを食べながらコーラを飲んで、子どもが部屋でずっとやっている風景をみんな想像しちゃうので。あれはFIFAもワールドカップをやり出したんですよ。競技人口という言い方をしますと、競技じゃないのかもしれませんが、世界で一番、今は当然サッカーなんですけど、その間に入っていくぐらいの数。一つそういうのもあり、中井町でいきなりeスポーツをやりますといえば、間違いなくニュースになる。中身がどうのこうのはいちいち書かないですよ。これからの地方創生の柱にしてもいいと。ゲームの場合はなんでもいいというのも一つあります。

座長 とにかく、欧米でスケボーとか、そういうのがきちんと競技であってできるので、町中を走らないでやっていますけど、あと、パークゴルフもスポーツ化するのは、今やっていらっしゃる方のあるルールに則って、ある時間でやっているのをそれを限られた時間に回れという感じでやっている。ゴルフもかなり早く回るというスポーツになるんですね。だから、競技性をさらに高めるプロっぽいパークゴルフと、今のゴルフと、もっと優しいゴルフ、3段階にするだけで競技は増えるんですね。もうちょっとパークゴルフを提供するってあっていいかなと思います。

それから、歩くという意味だと、地形医療というのがヨーロッパでは流行っていて、普通のこういう夏場のコースをきっちりと競技にするだけで、体にかかる負荷を全部計算して、ルートを結ぶんですね。テルモさんなんか、そういう専門家なんで、そういう機械を付けて回れるともっといいんですけど、そうすると心臓病の人にはこういうコースを歩いてくださいとか、糖尿病の人はこういうふうに歩いてくださいとかって、機械に設定されてそのマップを持って、当初はそのマップとあと所々の道にガイドの標識があるんですけど、それだけ投資すれば、山の中を歩くんですよ。そういう意味では、中井なんかはそれが最高に合っていると思うんですけど。

委員 先生がおっしゃったように、子どもで小学校の授業の文科省が一時期考えた授業。ところが、東京都ができないからすたれていってしまって、今の運動不足の子どもを山の中に入れて。やったので僕らなんかはわかりませんよ。同じ山にまたこれを登るのみたいな感じじゃないですか。あれを習慣的にするということは、かなり足腰にくる。今の子どもは足腰が弱いもんですから、高くはなりますけれども、年齢で差がある。そこの部分はかなり、文科省も一つのテーマとして。東京でビルを上るというのもあるんですけど、なかなかそれではつまらない。総合型

の大きな鍵になると思うのですけれども、近隣の小学生が中井までバスで来て、運動公園で降りてそれをやると、非常に子どもも足腰に良いというのはひょっとしてあるかなと思います。

座長 そういったカテゴリーでさっきの総合型地域スポーツクラブと一緒にするといいいのではありませんかなと思いますね。その辺はどうですか、担当課の方で返答できますか。総合スポーツクラブはどんな検討をされているのか。

担当課 スポーツクラブにつきまして、説明でもありましたように、地域スポーツを考える勉強会ということで、今、核になっている方々が集まって定期的に設立に向けてのいろいろ話であったり、イベントの参加の検討であったり、そのようなことを今やっておるんですけど、思うように事が運んでいないのが事実でございます。

座長 その辺、今の委員さんのご指摘のように、自走してくれそうな種目をまず先頭にしていこうというのはあるのかなと思いますので、種目がかなり多いと、多いペースでするのはすごく時間がかかってしまうので。

委員 その中でちょっと提案したいんですけど、キッズサイクルフェスティバルがあっても、中井町というのは意外と子どもをたくさん産まれている方が多くて、小学生がいて年中さんがいて2週もって小さい赤ちゃんを連れているお母さんがたくさんいらっしゃるって、上の子だけを参加させたいけど、下の子がいるから見てあげられないとか、危ないからやめてくださいと言われて断念されている方もたくさんいらっしゃるって、もし託児とかその時間ちょっと見守ってくれる方でもいらっしゃったら、もうちょっと参加しやすいのかなというのは、子育て世代はあります。

委員 そういうイベントのときに、そういうをつくることはできないんですかね。よく都会、私が住んでいるのは川崎なんですよ。向こうでなんかやると、正直そういう人たちも出るんですよ。だから、いつきのイベントの時間だけ、そうやって集約できる。だから、保育士までいかににしても、そこそこ面倒を見てあげられる人たちを何人か置いておいて、大体同じ世代がいれば、遊び代わりでもなんでも、少し軽いものでも置いておけば遊ぶじゃないですか、子どもたちって。そうすると、その間安心して参加できて、それが1回目のビジョンになれば、2度3度という形で繋がっていくんじゃないのかな。

委員 実際、私たちの法人のほうで二宮町から委託を受けて、託児をお願いしますといって中井町のお母さんを実際に何人か連れて行って、私が保育士なので見守りをしますという形で請け負ったことがあるので、中井ももしそういう託児ができる機能が付いていると、もっともっと参加率が上がり、スポーツもしやすくなるかなと。

委員 逆に、先ほどのように、二宮がそれをやっているのであれば、そのときだけは逆に二宮の町のそういうところをお願いして、うまく来ていただく、イベントのときに。逆に、その話を聞いた二宮のお母さんたちも、参加してみようかということで、多分この辺の地域全体として、

二宮、中井、それこそ大磯だとか、先ほどの秦野じゃないですけどどうまく繋がっていくと、西方地域がいい面で盛り上がるような形にはなるんじゃないのかなと。一町域で全部やろうとすると、結構負担があるじゃないですか。お互いに協力できる範囲は協力し合うというのが一つなのかなと。

委員 うちなんか、リーグの中ではやっていないんで怒られるんですけど、今サッカーの試合のときに託児を置いているんですよ。マリノスなんかは、競技場の右奥のコーナーキックの所の奥に大きい空気のドームを置いて、その中で子どもがずっと跳ねている。サッカーも見せる。ところが、預けられるからそれで集客をしている。それはやっぱり本当はかなりやんなきゃいけない。ただ、どうしてもきれいにセットしてやろうとすると、なかなかご協力いただける方があればいいんですけど、結構コストがかかって。どうしても今の時代なんで、怪我したらどうするんだとか、その辺があります。ただ、マリノスに聞いても、万が一怪我しても怒った人はいないから、それはぜひやられたほうがいいと思いますね。

座長 いろんなところで託児の話は出てきています。かなり需要と供給がなかなかバランスしないというのもあって、そういうのを確立していくような議論もあるんですけど、何らかのきっかけがないと、なかなかいかないですし、行政は行政で福祉の面で、そういうことをやっていてその辺が難しいところですけども、でもそういう情報発信をしていくのはすごく大事ですよ。本来、里都まちC A F Eも、子どもを預かることを主としているスペースはあるんですけど、果たして使われているかどうか分からないですよ。そういう事例をぜひつくってほしいですね。それがないと、なかなか子育ての世代の人は来てくれないので、そうするとまた人口が増えない。ぜひしていただきたいと思います。他、いかがでしょうか。

委員 ついつい行政の目線ですと縦割りみたいな、これとこれ。実際には、先ほどちょっと出た健康づくりステーションがあるということで、どうしても縦割りが出ちゃうんですね。あらためて、やはりターゲットを誰にするか、この人たちはターゲットなんですけど、当然のことながら子どもたちがいたりなんかするわけですよ。これをどう仕掛けとして取り組むかが大事。昔、収穫体験をしたときに、子どもたちをトラックの荷台に乗せてあげるんです。それから当時、トレテラと一緒に引っ張るのがありました。それにまた乗せてやるんですね。子どもたちはすごく感激をしていて、そこに子どもたちを呼ぶ仕掛けがあると、当然親と一緒に同席しますから、そんないろんな仕組みを。固定概念でこの人が対象ですとそれはそれでやるんでしょうけど、そういう仕組みをしていくといいのかもしれない。先ほど子育ての話のように。きちっとするとなかなか難しいんでしょうけど。

座長 行政は縦割りよりは、できないと。どうしたらできるのかということを考えていただく、そういう方が増えるといいなと思いますけど、なかなか今までのあれで。公園が今、民間のほうに委託するのは、ここは何々をしてはいけないということがあまりにも多くなり過ぎたので、反動でそういう動きがあるんですけど、必ずリスクはあるんですけど、どうも日本はどちらかというと規制しておいて、小学校もほとんど川で遊ぶとか、そういうのは一切できないですよ。で

も、お母さんたちは子どもたちにもっと自然と触れ合いたいとかって言っているんですけど、自分でやるかというとなれない。どこに連れていったらいいのと。児童クラブに連れていくと、児童クラブは教室の中でやることしかなくて、外ではやることは一切ない。今、日本は縦割りも横割りもいっぱいしていて、非常にやりにくいというのがあったりして、そういうのが崩れるといいなと思うんですよね。総合スポーツクラブというのは、そういうのが崩せれば、一番面白い。またなんか単体をまとめて団体になったりという形になるといいのではないかな。その辺をぜひ検討されているようですから、今後ともよろしくお願いします。他、いかがでしょうか。

委員 こども園の卒園式が先日あって、その園長先生が冒頭のごあいさつで、里都まちということについてごあいさつされていて、中井町はこういうふうな形で里都まちという名前を使ってみたいなことを言われていたのが、すごくお母さんたちの印象に残ったみたいで、その後謝恩会に行って、ほとんどの子育て世代のお母さんたちが参加してくださって、中井って里都まちという言葉がすごくきれいだねとか、興味を持ってくださっていたのをすごく印象として受けまして、保育園の園長先生とかが積極的にそういう言葉を使うことで里都まちという言葉が広く残っていくんだなと思って、感想としてすごくよかったことなので報告させていただきます。

座長 ぜひ広めてください。まだ、里都まちと言っているのは3カ所ぐらいしかないので、ぜひよろしくお願いします。ありがとうございます。他、いかがでしょうか。なければ時間もありますので、次の議題に。ちょっとまた何か気付きましたら、最後にまたお願いします。では次に、議題(2)の「中井まち・ひと・しごと創生総合戦略事業」について、そちらから説明をお願いします。

(2) 中井町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業について

事務局 資料の3をご覧ください。『平成30年度第1回なかい戦略みらい会議指摘事項への回答』でございます。前回のなかい戦略みらい会議の中で皆様からいただきましたご意見に対しまして、町の答えをご説明させていただきます。

まず一つ目で、ふるさと納税の返礼品になっていないブランド特産品につきましては、返礼品にすることを関係者と調整されたいというご意見であります。それにつきまして、ブランド戦略のほうでも、認証商品の販路拡大に向けた各種の支援策として、中井町のふるさと納税の返礼品として登録し、ふるさと納税実施者へのPRを行いますとありますので、この戦略に掲げているとおり、認証事業者には返礼品に登録するように調整して促していきたいと考えております。

二つ目の総合型地域スポーツクラブは、企業がやっても仕方ないので、地域が盛り上がっていく習慣がつかないといけないというご意見に対して、中井町の地域スポーツを考える勉強会におきましても、総合型地域スポーツクラブの活動は、行政が行っていくものではなく、皆さんで行っていただくものということを強調しておりまして、それを理解していただいて実際に引っ張っていく核となる人物も現れてきている状況でございます。

三つ目、自走化を目指していくのであれば、受益者負担にできるかどうかうまいくかの瀬戸

際になるといったご意見でございます。それにつきましては、国の交付金があるからこそ実施しているという事業も実際にはございます。事業全般において、町が財政負担をしなくても継続実施ができる方法というのは、常に考えていく必要があると思います。なお、中井の魅力体感ツアーにつきましては、昨年度、参加費が無料であったものを今年度は1人2,000円の参加費を取っておりまして、実際には定員を上回るような参加の方がございましたので、そういったこともうまく取り入れていきたいと考えております。

最後、四つ目ですが、一つ一つの事業がバラバラにやっている。イベントブース出展時に、ブランド特産品を販売するなど、連携して取り組んでいくべきというものにつきましては、シティプロモーションのブース出展時に、ブランド認証品の販売を行ったり、試飲を行ったりしました。また、里都まち交流拠点を拠点として、スポーツイベントやツアーを実施し、当施設で情報発信等も行っております。ただし、コラボさせた事業が少ないというのも事実でございますので、他の事業をどのように組み込めるかは考えながら進めていく必要があると思います。なお、庁内で開催しております職員研修会の中で、「地方創生」をテーマに研修を行いました。地方創生の趣旨を理解するとともに、全職員が一丸となって取り組んでいく重要性を共有しましたので、今後職員一丸となって取り組んでいきたいと考えております。

続いて、2ページ目をご覧ください。上から、町民の意見を聞く機会を設けたほうがよい。また、こういう場が公開で設けられていることが大切といったご意見でございます。それにつきましては、出張型地域懇談会「Cafe ミーティング」というのを行っておりまして、町長が直接、町民等の声を聞いたり、また「わたしの提案」制度で、町民等の提案に対して答えてきました。町民の意見を聞く場の創出につきましては、他の手法も研究しながら考えていきたいと考えております。なお、転入・転出の手続きで来庁された方を対象に、現在、「転入・転出者アンケート」というものを実施しております。また、来年度はまちづくりに関する町民アンケートも実施する予定でございますので、そのような手法を使いながら町民の意見というのも吸い上げていきたいと考えております。

二つ目、新しいものでなくてもよいので、今あるものや人気のものをうまく取り込む工夫が必要ではないかということです。新しい取組みを始めなければならないという視点にとらわれず、テニスのつどいのように、既存の人気のものをうまく活用していくというのも有効だと考えておりますので、そういった手法も考えて取り組んでいきたいと考えております。

最後、シティプロモーションを行う上では、人材育成も兼ねて、10代や20代のシビックプライド醸成を図っていったらどうかといったご意見でございます。シティプロモーション戦略指針におきまして、30代から40代というのをターゲットにしておりますが、10代、20代も、今後子育て世代になっていく人材でありますので、町内の小中学校ですとか、近隣の高校、大学などとも連携を図り、若年層の中井町への関心・愛着の醸成も図っていきたいと考えております。

それでは、説明は以上になります。

座長 ではご意見、よろしくお願いいたします。だいた、ご意見が出ましたが。

事務局 今、担当のほうからご説明差し上げましたが、委員さんからいろいろご提案をいただきましたので、託児所ですとかあと地域との広域的な連携と、それもちろんなかなか良いご提案

をいただいたというふうに思っておりますので、それも含めた中でこういったことは検討させていきたいというふうには思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

座長 そのカフェはどういうふうに、何かエリアを決めて開催されているんですか。開催の仕方はどんな。出張型ですか。

事務局 これは町のほうで、こういったシステムというか、申し込んでいただいて、そこへ出向くというような。日を決めているのではなくて、地域とかそういった方が5名以上集まっていたいて、町がそこへ出向いてお話を聞かせていただくというような制度でございます。一応、30年度からの事業ということで、今、取組みをさせていただいています。

座長 何回ぐらい開催したんですか。

事務局 4回です。

座長 町民と意見交換する方法は幾つかあるんですけど、この辺を調べていくと、小山町はそれぞれ地区に職員が大体5、6人担当がいて、全ての会議に必ず2人以上が入っていくんですね。全て地区の意見を全部、常に聞いているという状態で、一人一人が役所に行って相談したように、地区の中でまず職員が聞いてそこで議論して、その中でももちろん職員は吸い上げて、自分で報告できる、そのことに関して。グループでそういうふうに行っているんですね。そうすると、常時色んな方と顔が接点がある。構成は、若い職員と係長とか。別にその地域に住んでいる人じゃなくて、そのエリアにそれぞれ担当職員が付いているんですね。1人、2人でやると負担が大きいんですけど、ある程度グループでやっていращやる。かなりコミュニケーションが近くできるんですね。なんかそういう工夫をしないと、今、聞いている回数と人数だと、形をつくっているようなイメージしかない。本当の住民の意見は吸い上げてこれられないのかなと。そういうのももし行政内部でできるのであれば、していただくといいかなと思います。

委員 言い忘れたんですけど、総合型地域スポーツクラブ、今、未病センターがある、何でもいいんですけど、そもそも総合型地域スポーツクラブは文科省が任せたので、何となく運動のためなのですが、もともとヨーロッパであれだけつくったのは未病なんです。地域の健康対策で、医療費に金を将来どのぐらい使うのか。それじゃなくて、地域のスポーツクラブに先行投資して、気軽にスポーツできる環境をつくったほうが医療費が下がるんじゃないか、戦前からドイツが考えて、スポーツが盛り上がったのが総合型スポーツクラブ。従って、実は原点は未病なんです。それを今、日本はバラバラに、管轄が厚生労働省と別になっちゃっているんで、これは本来セットなんです。だから、役所の中でも多分、生涯学習とは別になっちゃうかもしれないんですけど、なるべくセットで動いたほうがいい。未病ってあまりいい言葉じゃないですね。病と付く言葉で楽しく生活できるかという、できないですよ。ただ、これは走っているんで、それはそれでいいんですけど、おばあちゃんたちが集まる所に、普通にスポーツクラブの一環として、子どもたちの定期的な健診を中井町ではしてあげますよと、一緒に未病センターに来てください、それが

子どものメタボだとか、あるいは基礎体力向上に繋がっていくということがセットになるというのがすごく大事だと思います。大都市圏で話をしても、それもそうだねというだけで、なかなか組織ができていてならないんですけど、失礼ながらやっぱりコンパクトなので、庁内でうまくキャッチボールをしながら、これをセットにするとかなり画期的じゃないか。できそうなんだけど、10年ぐらい同じ話をしているんですけど、なかなかできない。どうしてもそこは別だという話になるんですけど、これは実はセットなんです。そこはすごく総合型スポーツクラブには大事なことで。となると、参加するほうは逆に分かりやすいんですよ。行政のほうの整理はしにくくても、セットになるとそれはそうだよねという話になるんで。そうすると、両側から人が集まってくる。片方は未病未病と、なるべく長生きしましょう、死んじゃうのは嫌だよということでやっているのが、子どもたちも同じようにしているという空気だけで、何となく病は気からですから、そこはだいぶ違うと。テルモさんは、一番ご存じだと思います。そういうのをうまくくつつけた方がいい。

副座長 そこは結構、これから加速していくんじゃないかなと思って、やれAIだとか、IoTを無視できないところで、病気にならないのが一番いいんですけども、万が一病気になっちゃったら二度と入院せずに済むというようなところは、かなりシミュレーションでどんどんとプログラムができると思うんですね。そういうのは割と先取りしていくほうが、多分間違いないんじゃないかなというふうに思います。私、提供できるものがまだとてもないんですけども、必ずそっちの方向に向くと思います。

座長 その辺は、東海大学でもずっとやっているんで、そこに少しそういうことを研究している先生がいると思うので、そういうところからやっていったほうが面白いと思うんですね。小さいところが成功させると、モデルになって視察が飛んでくるみたいな話になるので。幼稚園とか保育園とかこども園なんかでも、園長先生の中に少しそういう考え方を持っていますし、実は茅ヶ崎で長寿社会の委員会をやったときに、東大の研究所の先生がいらっしゃって、未病なんて言葉はよくないと言ったらしいんですけど、どうしても未病と言うから仕様がなくてと言っていました。60から90まで生きようになったのは最近で、どうやって生きていくか全然モデルがないんで、我々の母親なんかでもそうですけど、モデルにならないんですね。だから、つくっていかなくちゃいけないので、多分そこに健康とスポーツみたいなものがくつつかない限りは、女性の場合は骨と筋肉を落とさないのが一番大事で、最近、自動の掃除機とか洗濯機も今、自動化されましたけど、昔の掃除とかやっていたら適当な運動でよくて、みんな自動化されたんで、フィットネスクラブに行って走らなくちゃいけなくなってしまうようなことをおっしゃっていますけど、あまりやり過ぎると高齢者は怪我をしてやらなくなっちゃうんで、運動の量もいろいろあると思うんですね。そういうことを勉強していかないと、多分いけない時代が来ていると思うので、そういうのを少しテーマに研究されたほうがいいのかなどは思いましたね。

総合型スポーツクラブは、どうしても種目の団体をつくろうみたいに言っているんですけど、趣旨をはっきりそういうふうにしたほうが、きっと参加される方も少しそういうところの要求が下がって、お互いに健康になると思いますので、そういう総合型スポーツクラブをやろうというのでいいと思うので、日本でそういうのをやっているところがあれば、視察してもいいでしょう

し、少し委員さんにもお話していただくといいのかなと。

委員 昔のJリーグは、小学校1・2年の子どもの足跡をやり始めて、粘土の上に乗らせて簡単に跡がつくんですよ。指を使うんですよ。自然に固形になっちゃうんですよ。指がつかないまま、そのまま成長していくと、どんどん重心がそのまま成長していくんで、当然、足腰は弱くなって、怪我をしやすくなるんですよ。それをおまえのところは総合型なんだからやれやれと言われて、やりますってやったんですね。ものすごい来るんですよ。サッカーのスクールをやってついでにやれば、サッカースクールの勧誘にもなるからちょっとやれって、一式を借りてきてJリーグから。そうすると、20パーセントくらい指の跡がつかないですね。15年くらい前ですけど、そうするとお母さんもパニック状態になっちゃって、何がいけないんですか。これで急に病気になっちゃうわけではないので、別にうちらであればサッカースクールなんだけど、もう少し日常やっている部分もあるから、歩かせたほうがいいですよ。かかないから、重心が前にいかないんですよ。

それなんかも分かりやすい話で、Jリーグはどうしても総合型というのを世間に分かってもらうために、そういう策でPRしています。そうすると、なるほどという話になるので、やっぱり子どもは元気よく跳ねて、うちの子は飛び回っているから元気だろうと思うと実はそうではなくて、一番大事なところは、実は欠落している。なんで1年生からというのと、5・6年になるとなかなか戻らなくなるんです。骨格もできてきちゃうし。1・2年は幼稚園から入ってきたばかりで、割と早い筋肉の修正が。細胞もどんどん、我々と違ってものすごい数が変わっているというから、そういうことがあると、興味を引くじゃないですか。そうすると、おばあちゃんも来て、うちの孫も連れていきましょうみたいな話になる。初期投資はすごくお金がかかります。テルモさんに考えていただかないと。普通に粘土でパッと付けるだけは、そんな簡単にできるんです。それはみんなセンサーが入っていて、結構当時は高額だったんで、Jリーグが5基ぐらい持っていて、それを貸して歩いていたんです。最近、サッカーに集中し過ぎて、あまりそういうことをやらなくなっちゃったんです。

座長 見える化ですよ。それはすごく大事。あとは、副町長さんがいらっしゃるので、役所の中の職員を全員、総合型スポーツ、健康とスポーツを一つにモデルをつくれと。血糖値と、体脂肪率と、それを全部チェックして、それを給料に反映するぞみたいな。なんかどこからスタートしないと駄目なんで、そういうのも一つの方法ですよ。

委員 総合型スポーツという概念が、今ヨーロッパのスタートの考え方が、こういう視点だったんですよというのを改めて認識させていただきましたので、つつい私ら今の言葉は日本の言葉がこういうものかと、だから取り組んでいるのかというイメージがつつい強かったんですね。私なんか健康づくりをするために、いろんな健康のプランなんかがあるんですけど、やっぱりうまく団体に行動を仕掛ける仕組みというのは大事な要素であるのなら、ただつついそればかりが見えちゃっているから見えないので、それが一つのこんな行動をするとなるのかな、先ほどなかなかそういう体系をつくるのは大変ですよと言われましたけど、そういうのが見えてくると、だからやってみようかなとかという仕掛けが、その辺を改めてちょっと今日はお話を聞きました

ので、そういう視点もしっかり見ていかないといけないかなと。総合型スポーツだと話がつつい頭の中に。

委員 総合型って付いていないですよ。スポーツクラブって普通は言う。なんで総合型って言うのかというと、日本のは縦割りの種目文化でずっとやってきたから、なかなか横の連携は今でもないですよ。したがって、複数形にしなきゃいけないんで総合って付けちゃっているんですよ。その結果、当時 2000 年に答申して、よしあしは別にして、5 年間補助金を付けたんですよ。要するに、総合型スポーツクラブで体育館にシャワーを付けて、1,000 万も出たのかな。そのときに、必ず総合型だから何種目やったほうがいいんですかと聞かれて、2 種目だと審査が通りますか。つくる側が補助金をもらうことばかり考えているから、何種目かやんなきゃいけない。4 種目なら通る、2 種目で落ちたけど 6 種目なら通るんじゃないのか、そういう発想から実はだんだん発していった言葉なんですよ。助成がなくなっちゃって、幾つかのクラブは実は年間 2,000 万はかかったんで、大変な時期があったんですよ。それで以前、文科省は大きく看板を振らなくなった。地道にやっている熱のある方が一生懸命やられているんで、今も 1,000 を超えてスポーツ NPO 法人があるんですけど、その中の皆さんが活動されている。その延長線で、ずっと総合型スポーツクラブとして残っている。スポーツクラブ、総合型と言っても、最初は分からないから、何のスポーツクラブですかと聞かれたら、総合型スポーツクラブ。我々は 20 年近くやっていて、総合型スポーツクラブって何ですかと、いまだに説明しますから。そういうものなんで、あまり言葉に関わらず、楽しく運動、体を動かすことがあって、それが実はお年寄りも子どもも、まさに未病に繋がっているんだよということがあれば、いちいちバスケットゴールの高さを幾つにしなきゃいけないとか、コートの大きさは幾つだとか、そういうのはあまり関係ないんです。どうしても競技スポーツの役員を集めて総合型をつくったところは、それじゃあ市長コートが足りないから体育館をもう一個建てることできないかみたいな話になって余計な税金を使う。それで急に人が増えるかという、18 時から平日に普通にサラリーマンが帰ってきてスポーツができる国じゃない。増えない。結局、策としてだんだん動かなくなっているところに、まさに未病といったところは、もしコンサルがうまくいってれば、スパッとほったはずなんですけど、そっちの体を動かす文科省の策がこういっちゃっているもんだから、全く別問題で、それは厚労省ですねと言い出すし、本来はセットなので、ぜひやっていただきたいと思います。

座長 あその施設も相当、苦戦していますからね。やっぱり建て替えないといけないし、中井はそんなに規模が大きいから、小さくきちっと絞ってやったらいいんじゃないかなと。ぜひその辺は創造していただければと思いますね。他、いかがでしょうか。

副座長 私どもの年末のクリスマスの時期に、町の皆さんのお力をお借りして、いろいろと里都まちブランド商品のブースもあったりして、野菜まで販売させていただいて、お茶のほうも私どもも使っていただいているんですけども、意外と、ああいう場所で仕事をしていると、地域にもそれなりの誇りを感じていまして、必ず PR しながら出したりするんですね。そういう点で、もっとびっくりするのは、お客さんが後、必ず持ってかえるということで、やっぱり何かしらお話できると、愛着を持っていただいています。それから、あと販売のほうも、どれだけ売上に貢献し

たかというのは判然としていないんですけれども、よくよく聞くと、その後直接ご連絡を取って買ったりということもしているようです。ある意味、ああいうことをきっかけにここにも販路があり、いいのかどうか分かんないんですけれども、いろいろ販路の拡張というのは可能性があるんじゃないかなというふうに思っています。私たちも、この中の幾つかは直接連絡して、販売させていただいたりしていますので、本当に寒い中ご協力いただきましてどうもありがとうございます。

座長 そういう意味でいうと、企業さんのほうでは未病とか、健康とスポーツみたいな可能性としては。

副座長 私らは本当もろにテーマなものですから、言えるような内容じゃないんですが、足は特に着目してまして、先ほどおっしゃっていたとおりで、板の上に乗っておけば、相当な状態が分かる。そこで補正すれば、あと5年、10年、寿命が延びますよというのが今や分かる時代ですので、もうちょっとしたら言えるようになるといいですけれども。

座長 せっかく地元こういう企業がいるんですから、そことタイアップして取り組むと、新しい取り組みになりますし、ふるさと納税返礼品に入っているんですか、テルモさんの商品。

担当課 医療機器とか電気用品は、結構厳しくて。

座長 総務省で問題になっている。地元の企業も、その地域の産物だと考えましていいと思うんですよね。やったほうが勝ちみたいなのところもあって、そういう地元企業さんのほうに特に重要なポイントだと思うので、お願いします。ありがとうございます。

4 委員の任期について

1年間委員の再任を依頼。異議なし。

5 現行総合戦略の総括と次期総合戦略の策定について

現行の総合戦略を1年間延長（改訂）し、2020年度に現行総合戦略の総括を行い、次期総合戦略は2021年度～2025年度の5か年戦略とする町の方針（案）を説明。また、今後の方針について、改めて書面協議等でなかい戦略みらい会議委員に諮りたい旨を説明。異議なし。

6 その他

7 閉会

以上